

LMO-AS-FJ V05A

UltraSCSI MAGNETO-OPTICAL DISK UNIT

MOユニット・ ユーザーズマニュアル

LMO-A654S

LMO-A1354S



Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
付属品の確認	5
ごあいさつ	6
ご注意	6
第1章 製品のご紹介	7
1.1 製品の特徴	7
1.2 各部の名称と機能	10
第2章 接続について	12
2.1 接続の前に	12
2.1.1 設置方向について	12
2.1.2 MOユニットの設定	13
2.2 接続の手順	16
2.3 他のSCSI機器との併用について	19
第3章 接続後の作業	21
3.1 Windows環境の場合	21
3.1.1 使用可能な状態になるまで	21
3.1.2 ソフトウェアのインストール	22
3.1.3 メディアのセットと取り出しについて	24
3.2 Macintosh環境の場合	26
3.2.1 フォーマッタのインストール	26
3.2.2 メディアのセットと取り出しについて	27
第4章 補足事項	28
4.1 トラブルシューティング	28
4.2 Macintosh PowerBook に接続する場合	32
4.3 保守とその他	33
4.4 メディアIDについて	34
4.5 オプション品について	35
ハードウェア仕様	37

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示(マークなど)を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。



注意

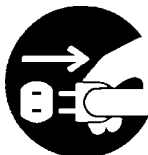
この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かに注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。

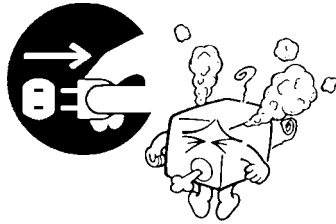


塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

万一、異常が発生したとき。

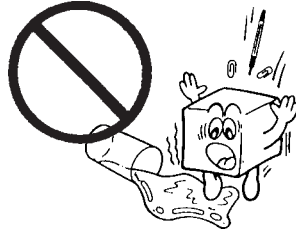
本体から異臭や煙が出た時は、ただちにACアダプタをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



異物を入れないでください。

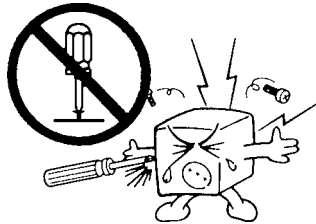
本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



分解しないでください。

ケースは絶対に分解しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。



正しい電源で

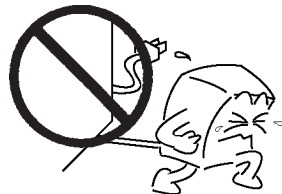
使用してください。

ACアダプタは必ず本製品付属のものを使用し、AC100Vのコンセントに接続してください。



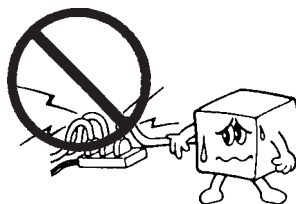
ACアダプタのコードを大切に。

ACアダプタのコードは破損しないように十分ご注意ください。コード部分を持って抜き差ししたり、コードの上にものを乗せると、被服が破れて感電/火災の原因となります。



⚠ 注意

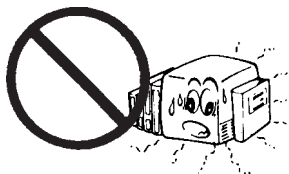
ACアダプタはなるべくコンセントに直接接続してください。タコ足配線や何本も延長したテーブルタップの使用は火災の原因となります。



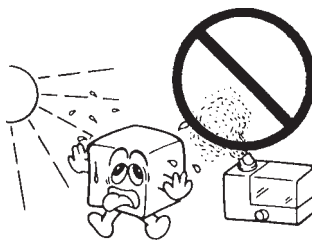
ACアダプタのコードは必ず伸ばした状態で使用してください。束ねた状態で使用すると、過熱による火災の原因となります。



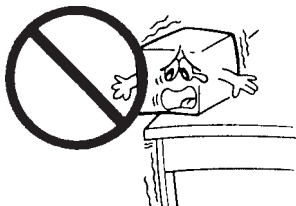
通風孔はふさがらないでください。過熱による火災、故障の原因となります。



高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。

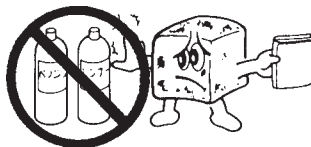


本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用 / 保管は避けてください。

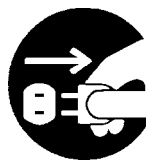


⚠ 注意

本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。(本体内に垂れ落ちるほど含ませないように気をつけてください。)揮発性の薬品(ベンジン・シンナーなど)を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



本製品を長期間使用しない場合は、ACアダプタをコンセントから抜いておいてください。





Windows 環境でご使用の方へ

当社 DOS/V 対応製品は、OADG(*1)加盟メーカーの DOS/V パソコンで一般に市販されている製品を想定して設計されています。しかし、接続確認については全ての機種を確認することは不可能ですので、代表的な製品のみで確認を行っております。そのため、本製品を使用できない、または本製品の機能を使用できないパソコンが一部に存在する可能性があることは、ご了解いただきますようお願いいたします。特に自作パソコンやショップ組立てパソコンでは、コストの問題やパフォーマンスの追求のため、想定外の部品が使用されている場合があります。このような場合、相性問題などが発生する可能性が高くなることをご承知おきください。

(*1)OADG は「PC オープンアーキテクチャー推進協議会」の略です。
(OADG URL <http://www.oadg.or.jp/>)

付属品の確認

MO ユニット	1 台
AC アダプタ	1 個
SCSI ケーブル	1 本
縦置き用スタンド	1 セット
横置き用ゴム足	1 セット
イジェクトツール	1 個
「LogitechWare」CD-ROM	1 枚
保証書 / ユーザー登録カード	1 枚
MO ユニット・ユーザーズマニュアル	本書
SCSI インターフェースボード (/P モデルのみ) LHA-600S	一式

本製品は精密電子機器です。輸送の際には必ず付属の梱包材をご使用ください。

* MS[®]、Windows[®] は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国での登録商標です。Macintosh、Mac OS、FireWire は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。i.LINK はソニー株式会社の商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品に保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様 お客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

第 1 章 製品のご紹介

1 . 1 製品の特徴

本製品は SCSI 対応の外付け型 MO ユニットです。

本製品の特徴

世界標準の ISO 規格に準拠する MO メディアを使用できます。(使用可能な MO メディアの容量やタイプについては、9 ページをご参照ください。) MO メディアの判別は自動判別で行なわれます。

美しさ、強さ、放熱性を兼ね備えた一体型アルミボディを採用しています。放熱性能の向上により、さらに安定したパフォーマンスが実現されています。



参考

アルミボディは熱の伝導性が高いため、本製品の動作中にボディ表面に触れると熱く感じる場合がありますが、これは異常ではありません。

コンパクトで設置に場所を取りません。設置方向は縦置き / 横置きのどちらも可能です。

ターミネータを内蔵しています。内蔵ターミネータはディップスイッチで有効 / 無効を切り替えることが可能です。

対応パソコンについて

本製品は以下のパソコン本体に接続して使用することができます。いずれも SCSI インターフェースを標準搭載しているか、弊社 SCSI インターフェイスボードを接続可能な機種に限定されます。

各社	DOS/V パソコン
日本電気株式会社	PC98-NX シリーズ PC-9800 シリーズ
アップルコンピュータ社	Macintosh シリーズ



ご注意

- ・ 発売されているすべての機種で動作確認を行うのは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることはご承知おきください。
- ・ Macintosh シリーズは、Macintosh SE/30 以降でハードディスクを内蔵した機種に限定されます。(iMac シリーズ、iBook シリーズを除く)
- ・ 推奨 SCSI インターフェースについては、第 4 章の「4.5 オプション品について」をご参照ください。

対応 OS

本製品は以下の OS で使用することができます。(いずれも日本語 OS のみ。また、パソコン本体が対応していない OS では使用できません。)

マイクロソフト株式会社

Windows XP Home Edition / Professional
Windows Me
Windows 98 (Second Edition 含む)
Windows 95
Windows 2000 Professional
Windows NT 4.0

アップルコンピュータ社

Mac OS 7.6 ~ 9.2.2
(「/P」モデルの場合は、付属 SCSI インターフェイスボードの制限から Mac OS 8.1 以降になります。)

機種と使用可能なメディアについて

本製品には以下のような2種類の機種がラインアップされています。

型番が「LMO-A6」で始まる機種 640MB 対応の機種です。
 型番が「LMO-A13」で始まる機種 1.3GB 対応の機種です。

それぞれの機種では、下表で のついたMOメディアを使用することができます。

標準 = 標準タイプ OW = オーバーライトタイプ

		640MB対応 の機種	1.3GB対応 の機種
128MB	標準		
	OW		
230MB	標準		
	OW		
540MB	標準		
	OW		
640MB	標準		
	OW		
1.3GB	標準	×	
	OW		

= 使用可能 × = 使用不可

- = このタイプは現在発売されていません。



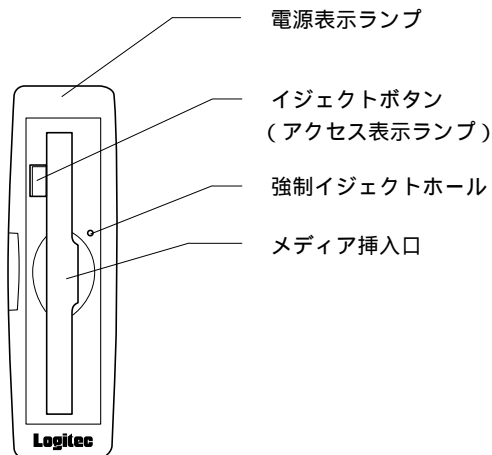
ご注意

他の MO ユニットとのデータ交換には、128MB の MO メディアは使用しないでください。(この用途は保証範囲外とさせていただきます。)

これは128MBのMOユニットには、初期のドライブを使用した製品があり、レーザー光の強度が本製品と異なる可能性があるためです。データ交換には、230MB以上のMOメディアをご使用ください。

1 . 2 各部の名称と機能

前面



電源表示ランプ

本製品の電源が ON になると内部のランプが点灯します。

イジェクトボタン (アクセス表示ランプ)

パソコン本体の OS が起動していないときに、MO メディアを取り出したい場合に使用します。また、このボタンにはアクセス表示ランプの機能もあり、本製品にセットされた MO メディアにアクセスが行われると内部のランプが点滅します。

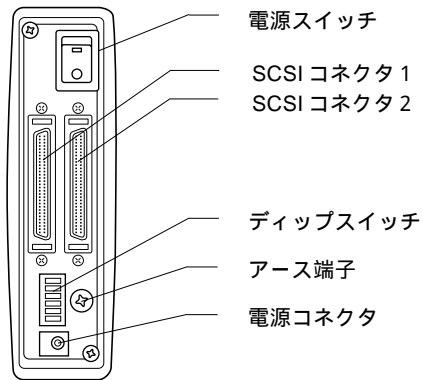
強制イジェクトホール

何かの原因で MO メディアが取り出せなくなったときに使用します。詳細については第 4 章の「4 . 1 トラブルシューティング」をご参照ください。

メディア挿入口

MO メディアをセットする部分です。

背面



電源スイッチ

本製品の電源を ON/OFF します。

SCSI コネクタ 1

SCSI コネクタ 2

どちらか片方を、付属ケーブルで SCSI インターフェースと接続します。もう片方は SCSI 機器を増設する場合に使用します。この2つのコネクタはまったく同じ機能を持っていますので、どちらを SCSI インターフェース接続用に使用してもかまいません。

ディップスイッチ

本製品の SCSI ID ナンバーと、内蔵ターミネータの有効 / 無効を設定します。

アース端子

太くて短い導線などで、パソコン本体のフレームグランド端子と接続すると、静電気などの外部ノイズに対して強くなります。

電源コネクタ

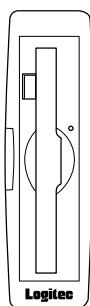
付属 AC アダプタのプラグを接続します。

第2章 接続について

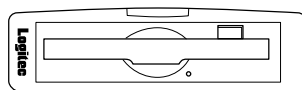
2.1 接続の前に

2.1.1 設置方向について

本製品は縦置き、横置きのどちらでも設置できますが、それぞれ以下のような方向で設置してください。

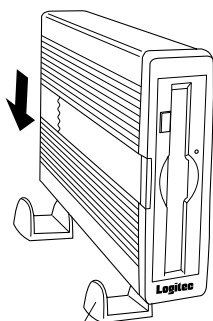


縦置きの場合



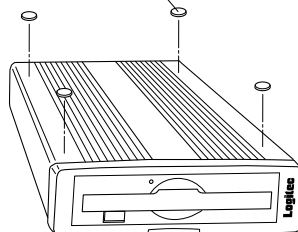
横置きの場合

縦置きの場合は付属の「縦置き用スタンド」をご使用ください。また、横置きの場合は付属の「横置き用ゴム足」を底面に貼付してください。



縦置き用スタンド

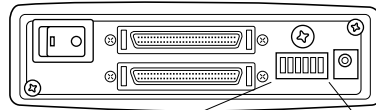
横置き用ゴム足



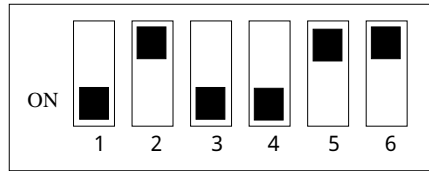
上図は底面を上にするため、通常の設置方向と逆になっています。ご注意ください。

2.1.2 MOユニットの設定

本製品の背面にはディップスイッチがあり、本製品に関する設定（IDナンバー、内蔵ターミネータ）を行います。必要に応じて設定を確認／変更してください。（本製品以外に SCSI 機器を使用しない場合は、出荷時設定から変更する必要はありません。）



出荷時設定



IDナンバーの設定

IDナンバー：5

固定

内蔵ターミネータの設定

内蔵ターミネータ：有効










ご注意

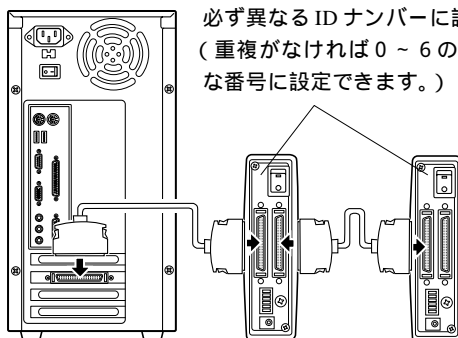
- ・ディップスイッチの設定を変更する場合は、本製品の電源がOFFになっている状態で変更してください。電源がONになったままで変更しても認識されません。
- ・上の説明の中で「固定」と書かれたスイッチは変更しないでください。

ID ナンバースイッチの設定

「ID ナンバー」は SCSI 機器を区別するための番号です。「0」～「6」の範囲で任意の番号に設定できますが、併用する SCSI 機器と重複があつてはいけません。(例えば、同じ SCSI インターフェースに ID ナンバー「5」に設定した機器が 2 台接続されてはいけません。どちらかを別の番号にする必要があります。)

もし、本製品以外に SCSI 機器を使用しない場合は、出荷時設定のまま、ID ナンバー「5」でご使用ください。

IDナンバー：0	IDナンバー：1	IDナンバー：2	IDナンバー：3
ON  1 2 3	ON  1 2 3	ON  1 2 3	ON  1 2 3
IDナンバー：4	IDナンバー：5	IDナンバー：6	
ON  1 2 3	ON  1 2 3	ON  1 2 3	



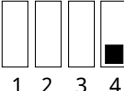

必ず異なる ID ナンバーに設定します。
(重複がなければ 0～6 の範囲で好きな番号に設定できます。)

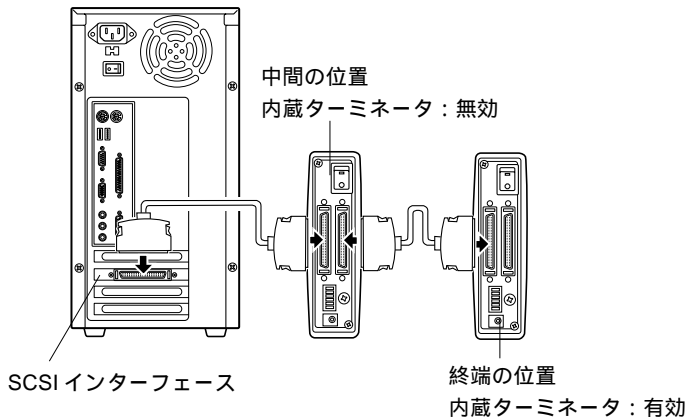
内蔵ターミネータの設定

SCSI接続では終端(SCSIインターフェースから一番遠い位置)になる機器にターミネータと呼ばれる部品を接続して、信号を安定させます。

本製品はこのターミネータを内蔵して、ディップスイッチで有効/無効を切り替えることができます。そのため、本製品を終端の位置に接続する場合は「有効」(出荷時設定)に、終端以外の中間の位置に接続する場合は「無効」に設定してください。

もし、本製品以外にSCSI機器を使用しない場合は、本製品が終端となりますので、出荷時設定のまま「有効」でご使用ください。

内蔵ターミネータ：有効	内蔵ターミネータ：無効
ON  1 2 3 4	ON  1 2 3 4



ご注意

本製品と同じようにターミネータを内蔵するSCSI機器を複数接続する場合、ターミネータは必ず終端に接続された1台のみ「有効」に設定してください。不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。

2 . 2 接続の手順

ここでは本製品のみをSCSIインターフェースに接続する手順を説明します。例としてあげられているパソコン本体はDOS/Vパソコンですが、基本的な接続方法はその他のパソコンでも同じです。

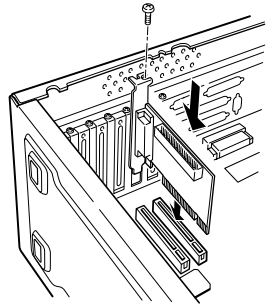
ただし、本製品を Macintosh PowerBook シリーズの旧機種 (HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook2400、3400、G3 を除くもの) に接続する場合は、特殊な接続方法になりますので、第4章「4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合」をご参照ください。



重要なお注意

- ・ 接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにしてください。
また、SCSI インターフェースを新規接続する場合は、必ずパソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。SCSI インターフェースを接続する際に、内部ショートが発生すると電源がONになってしまう場合があります。危険防止のため、必ず電源コードをコンセントから外してください。
 - ・ 本製品の SCSI コネクタは接点にピンを使用しています。そのため、間違ったコネクタに差し込んだり、無理に力を加えるとピンが曲がってしまいます。
ケーブル接続時はSCSI コネクタの種類と方向を確認して、正面から接続してください。接続しにくい場合は、無理に力を加えないでピンが曲がっていないかどうか確認してください。
-

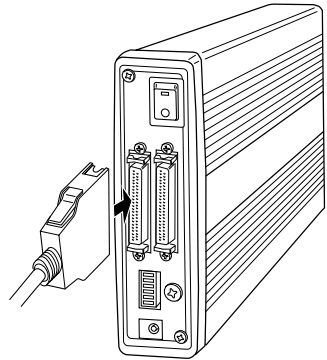
SCSI インターフェースを内蔵していないパソコン本体の場合は、最初に SCSI インターフェースボードを接続します。詳細については SCSI インターフェースボードのマニュアルをご参照ください。



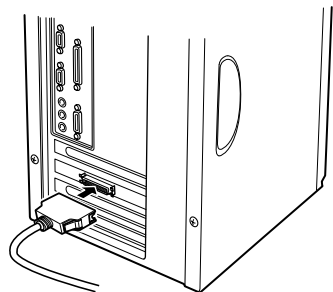
2

本製品の SCSI コネクタに、本製品付属ケーブルを接続します。SCSI コネクタは 2 個ありますが、どちらを使用してもかまいません。

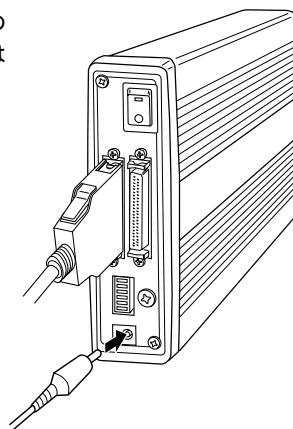
カチッとロック
したことを確認



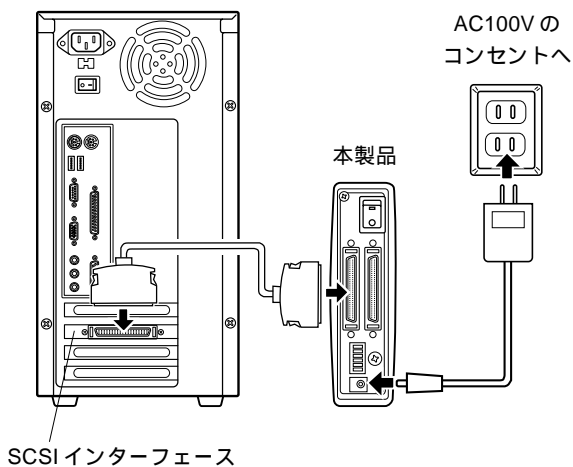
本製品付属ケーブルのもう片方のコネクタを、SCSI インターフェースの外部 SCSI コネクタに接続します。



本製品の電源コネクタにACアダプタのプラグを接続します。ACアダプタはAC100Vのコンセントに接続します。



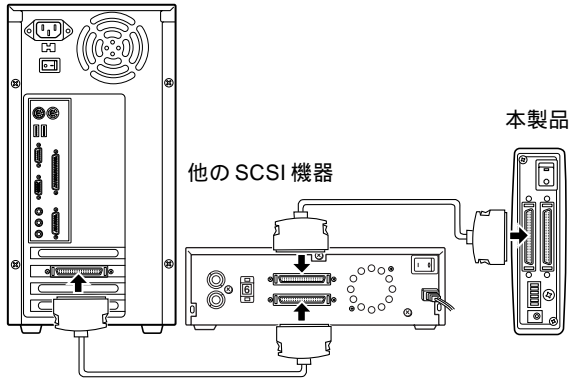
以上で接続は終了です。下の接続図と比べて、間違いがないことを確認してください。



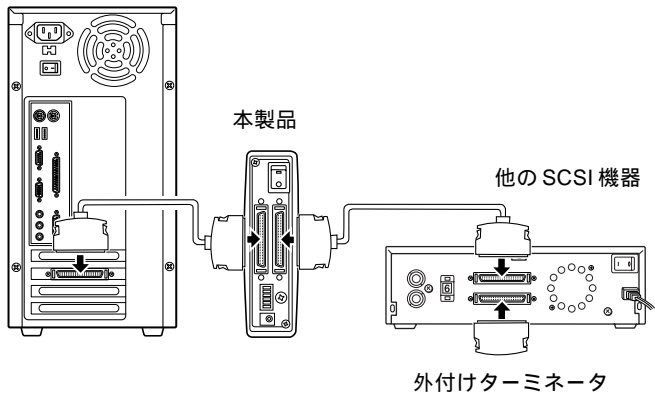
2.3 他の SCSI 機器との併用について

SCSI 規格では、複数の SCSI 機器を数珠つなぎにして 1 つの SCSI インターフェイスに接続することができます。本製品を他の SCSI 機器と併用する場合は、下の接続図のように接続してください。その際、次ページの注意事項にご注意ください。

本製品を他の SCSI 機器に接続する場合



本製品に他の SCSI 機器を増設する場合



注意事項

- ・ケーブル長、接続台数は原則的に以下の通りです。詳細については SCSI インターフェイスボードのマニュアルをご参照ください。
ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計です。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)

	ケーブル長の合計	接続台数
FastSCSI	3m以下	4台以下
UltraSCSI		3台以下

- ・ケーブル長は内蔵ケーブルも含むすべての合計が3m以下でなければなりません。(ケーブルは短ければ短いほど動作が安定します。)
- ・IDナンバーは必ず重複しないように設定してください。
- ・終端となる SCSI 機器(パソコン本体から一番遠い SCSI 機器)は、SCSI 機器内蔵のターミネータを「有効」に設定するか、外付けターミネータを接続してください。(前ページ下の図は外付けターミネータを接続した例です。)



ご注意

- ・SCSI 機器の中には、本製品と同じようにターミネータを内蔵しているものもあります。このような機器を併用する場合は、必ず終端となる機器のターミネータだけを有効にしてください。(中間に接続された機器のターミネータはすべて無効にします。)
不要に多くのターミネータが有効になっていると、過電流で機器を損傷する場合があります。
- ・SCSI 機器の中には、オートターミネーション機能(内蔵ターミネータを自動的に有効/無効に設定する機能)を持つものもあります。このような SCSI 機器を接続する場合は、SCSI 機器のマニュアルにしたがって接続を行ってください。

第3章 接続後の作業

3.1 Windows 環境の場合

3.1.1 使用可能な状態になるまで

接続が完了したら、パソコン本体の電源をONにして、Windowsのシステムを起動してください。

SCSIインターフェースボードを新規接続した場合は、Windowsのシステム起動が完了する前に、プラグ&プレイでSCSIインターフェースボードが認識され、ドライバのインストール作業に入ります。SCSIインターフェースボードのマニュアルにしたがってインストール作業を行ってください。

Windowsのシステム起動が完了したら、「マイコンピュータ」をダブルクリックして開いてください。すべての作業に問題がなければ、本製品がリムーバブルディスクとして認識され、新しいリムーバブルディスクのアイコンが登録されているはずですが。

もし、本製品がリムーバブルディスクとして認識されていない場合は、第4章の「4.1 トラブルシューティング」にしたがってチェックを行ってください。

Windows 98,Me,2000 等では



本製品のアイコン
ドライブ名は異なる
可能性があります。

Windows XP では...



本製品にフォーマットされたMOメディアをセットして、このアイコンをダブルクリックすると、セットしたMOメディアにアクセスすることができます。

3.1.2 ソフトウェアのインストール

本製品には、MOメディアを使用する上で必要なソフトウェア(フォーマッタ等)が、「ディスクユーティリティ」として添付されています。

本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクユーティリティ」をインストールしてください。(下図参照)

1. 「ディスクユーティリティ」のアイコンを
1回クリックして、選択状態にします。



2. 「セットアップの
起動」をクリック
します。

Point

Windows Me, 98/95をご使用の場合、ディスクユーティリティには「ディスクフォーマッタ」、「ディスクイジェクトツール」、「MO補助ドライバ」が含まれています。これらのユーティリティは本製品を使用する上で必要ですので、必ずすべてインストールしてください。



Windows XP, 2000, NT 4.0の場合、ディスクユーティリティは「MOメディアフォーマッタ」のみです。

MOメディアのフォーマットは

MOメディアのフォーマットは「ディスクユーティリティ」に含まれる「ディスクフォーマッタ」(Windows XP, 2000, NT 4.0の場合は「MOメディアフォーマッタ」)で行います。

ディスクユーティリティのインストールが終了したら、ディスクフォーマッタはタスクバー上の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」「Logitech」とポイントし、「ディスクフォーマッタ」(もしくは「MOメディアフォーマッタ」)をクリックすることで起動できます。



また、Windows Me, 98/95 でインストール時にデスクトップ上にショートカットアイコンを作成した場合は、デスクトップ上の右のアイコンをダブルクリックしても起動することができます。



フォーマッタが起動したら、本製品のフォーマットを行います。フォーマットの手順については、ディスクフォーマッタのヘルプメニューから「トピックの検索」を選択し、表示されるヘルプウィンドウで「操作方法」「MOメディアのフォーマット」をご参照ください。



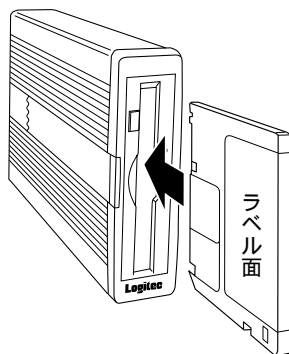
参考

Windows XP, 2000, NT 4.0用のMOメディアフォーマッタにはヘルプはありません。必要に応じて、「LogitechWare」CD-ROMのオンラインマニュアルを参照してください。

3 . 1 . 3 メディアのセットと取り出しについて

メディアをセットするには

本製品に MO メディアをセットする場合は、右図の方向でメディア挿入口に挿入してください。(間違った方向では挿入できません。)



3



ご注意

本製品にはMOメディア以外のメディアは挿入しないでください。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

メディアを取り出すときは

Windows には遅延書き込み機能 (*1) があるため、メディアを取り出すときは本製品前面のイジェクトボタンを使用するよりも、ソフトウェアによる取り出しを行ったほうが安全です。

取り出しの手順は使用する OS によって異なります。次ページをご参照ください。

*1 書き込みデータをメモリ上のキャッシュに蓄積することによって、見かけ上高速に書き込みを終了する機能。パフォーマンスは向上するが、書き込みデータがメモリ上に残った状態でMOメディアを取り出すと、データが失われる危険性がある。

Windows Me , 98/95 の場合

Windows Me , 98/95 上で MO メディアを取り出したい場合は、ディスクユーティリティインストール時にインストールされたイジェクトツールを使用します。タスクバーの右側のアイコンをクリックして、表示されるメニューから本製品のドライブ名を選択してください。



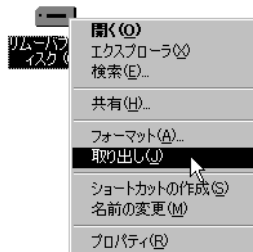
このアイコンをクリックします。

この操作を行うと、MO メディアが 1cm ほど排出されますので、静かに引き出してください。

Windows XP , 2000 , NT 4.0 の場合

Windows XP , 2000 , NT 4.0 上で MO メディアを取り出したい場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン（リムーバブルディスク）を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。

この操作を行うと、MO メディアが 1cm ほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

- Windows XP , 2000 , NT 4.0 で MO メディアを取り出すには、管理者権限を持つユーザー（例えば「コンピュータの管理者」や「Administrators」グループ）のメンバーとしてログオンする必要があります。
- Windows NT 4.0 では、NTFS 形式でフォーマットされた MO メディアをシステムが起動している状態で取り出すことはできません。これを取り出したい場合は、システムを終了してからイジェクトボタンを押してください。

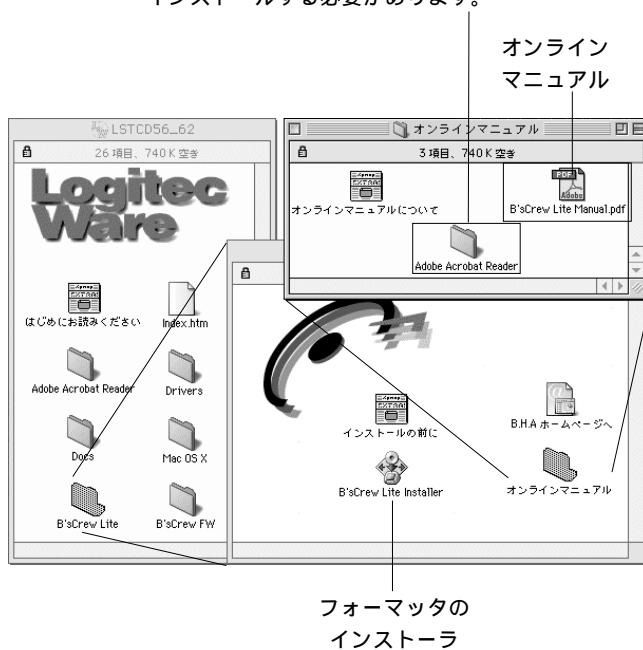
3.2 Macintosh 環境の場合

3.2.1 フォーマッタのインストール

本製品を Macintosh 環境で使用する場合、Macintosh 用フォーマッタ「B'sCrew Lite」をインストールしなければなりません。このフォーマッタは、付属の「LogitecWare」CD-ROM に収録されています。インストール手順、およびMOメディアのフォーマット手順については、オンラインマニュアルを参照してください。

3

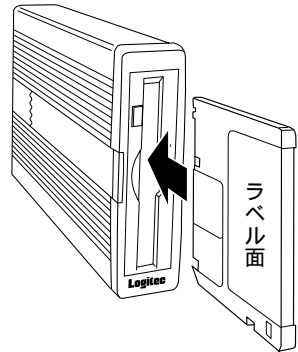
オンラインマニュアルを参照するには、このソフトウェア(Adobe Acrobat Reader)をインストールする必要があります。



3.2.2 メディアのセットと取り出しについて

メディアをセットするには

本製品にMOメディアをセットする場合は、右図の方向でメディア挿入口に挿入してください。(間違った方向では挿入できません。)



ご注意

本製品にはMOメディア以外のメディアは挿入しないでください。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

メディアを取り出すときは

Mac OS 上でMOメディアを取り出したい場合は、デスクトップ上にマウントされたMOメディアのアイコンをゴミ箱のアイコンに重ねてください。

この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

本製品前面のイジェクトボタンはMac OS が起動していないときに使用します。Mac OS 稼動中は使用しないでください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品を接続したら、システムが起動しなくなった。

本製品のIDナンバーが他のSCSI機器と重複していないかどうか確認してください。

Windows環境で本製品が認識されない。

本製品の電源の状態と接続の状態をもう一度確認してください。
SCSIインターフェースは正常に認識されていますか？ SCSIインターフェースのドライバはインストールされていますか？

Macintosh環境で本製品が認識されない。

Macintosh用フォーマット「B'sCrew 3 Lite」はインストールされていますか？
システム起動時に表示されるアイコンに「！」マークや「？」マークが付いていないかどうか確認してください。

時々エラーが発生するなど、

本製品の動作が安定しない。

SCSIコネクタなどに接触不良はありませんか？

本製品のディップスイッチでターミネータの設定状態を確認してください。本製品が終端となる位置に接続されている場合、本製品の内蔵ターミネータ有効に設定されていなければなりません。本製品が終端以外の位置に接続されている場合、無効に設定されていなければなりません。この場合、終端に接続されている機器の内蔵ターミネータが有効になっているか、外付けターミネータが接続されていなければなりません。

ケーブルが長すぎませんか？ 複数の機器を接続している場合は、本製品だけを接続して試してください。また、インピーダンスの低いケーブルはトラブルの原因となります。可能であればケーブルを交換して試してください。

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを行っててください。

MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してください。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデータをバックアップして、物理フォーマットからやり直してください。

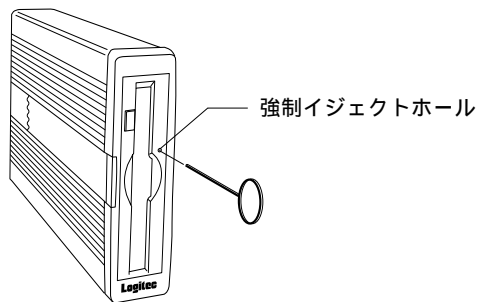
前項目（動作が安定しない）と同じように、ターミネータ（ディップスイッチ）/ケーブルの状態を確認してみてください。

MOメディアがイジェクト出来ない。

アクセス表示ランプが点灯していないか確認してください。アクセス中はイジェクトできませんので、アクセスが終了するまでお待ちください。

ソフトウェアの中には、MOメディアのイジェクトを禁止するものがあります。現在使用中のソフトウェアを終了して試してください。

上記の項目に当てはまらない場合、一度システムを終了し、パソコン本体および本製品の電源を再投入して、試してください。これもだめな場合は、本製品の電源をOFFにして、付属のイジェクトツールを強制イジェクトホールに挿し込み、強く押してください。



ご注意

本製品の電源がONの状態では、強制イジェクトは行わないでください。

特定のMOメディアをアクセスできない。

そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォーマットのみではアクセスはできません。本製品付属のフォーマッタでフォーマット（論理フォーマット）を行ってください。

MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的ですが、ハードディスク形式やMacintoshシリーズ専用フォーマットされたディスクもあります。異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用してください。（MacintoshシリーズでスーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用するには、MacOS標準のユーティリティ「PC Exchange」が必要です。）

そのMOメディアが本製品で使用できる容量のものかどうかを確認してください。使用可能なMOメディアについては、「1.1 製品の特徴」の「機種と使用可能なメディアについて」をご参照ください。

MOメディアに書き込みができない。

MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）でMOメディアを使用できない。

一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。

一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

Windows 95 上でMOメディアの

フォーマットを行うと非常に時間がかかる。

PC-9800シリーズ用のWindows 95でこのようなトラブルが発生することが確認されています。本製品付属のフォーマッタをご使用ください。

Windows NT 4.0でMOメディアをアクセスすると「パラメータに誤りがあります。」のエラーが表示される。

Windows NT 4.0でサポートされていない形式でフォーマットされています。本製品付属のフォーマットで再フォーマットする必要があります。

Windows NT 4.0でドライブ文字の割り当てができない。

Windows NT 4.0の仕様です。本製品を外した状態でHD、CD-ROMへのドライブ文字の割り当てをすることで、AからZの順番でHD、CD-ROMの空き番号が割りあてられます。

その他：ソフトウェアの最新バージョン入手方法など

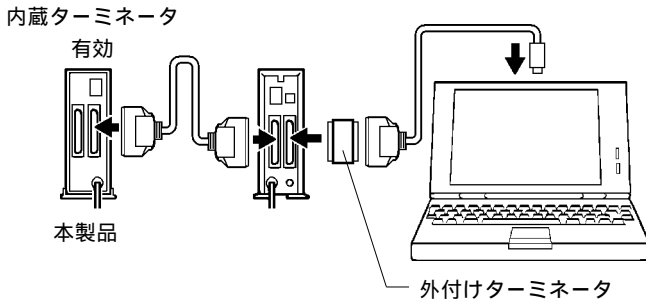
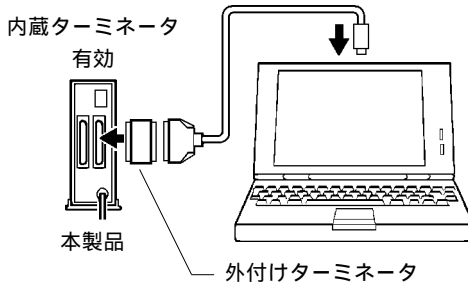
弊社ではインターネット上にホームページを開いています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーもありますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitec.co.jp/>

4 . 2 Macintosh PowerBook に接続する場合

Point

Macintosh PowerBook シリーズの旧機種（HDI 30 ピンの SCSI コネクタを持つ機種で、Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 を除くもの）では、SCSI インターフェイスにターミネータが内蔵されていません。そのため、これらの機種では、SCSI 機器を挟み込むように 2 個のターミネータを必要とします。つまり本製品の内蔵ターミネータが有効に設定されていても、別途外付けターミネータが必要だということです。（Macintosh PowerBook 2400、3400、G3 はターミネータを内蔵していますので、外付けターミネータは必要ありません。）



図のように外付けターミネータは、両端に SCSI コネクタを持つタイプ（両切）でなければなりません。本製品に接続可能な両切のターミネータは以下の型番で弊社より発売されています。

LSR-A52A（D-sub ハーフピッチ 50 ピン × 2）

4 . 3 保守とその他

メディアのクリーニングについて

MOメディアは1～3ヶ月に1回程度、別売のメディアクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの取扱説明書をご参照ください。

本製品用のメディアクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-330-02

レンズ・ヘッドのクリーニングについて

空気中に浮遊するほこり、ちり、およびタバコの煙などが、本製品内部のレンズ・ヘッドに付着すると性能が低下することがあります。

本製品内部のレンズ・ヘッドは3ヶ月に1回程度、別売のレンズクリーニングキットを使用してクリーニングする必要があります。(使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なります。)クリーニングの方法については、クリーニングキットの使用法をご参照ください。

本製品用のレンズ・ヘッドクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-640-02



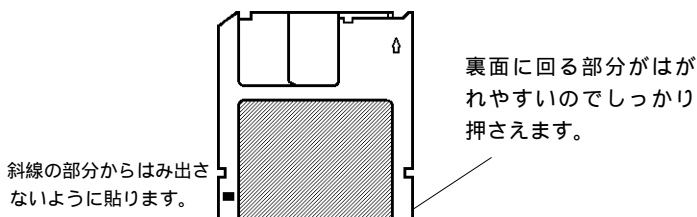
ご注意

- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットを使用する場合は、ACアダプタを接続し電源を供給する必要があります。
 - ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットは必ず弊社販売の「LMO-640-02」をご使用ください。市販のものを無理に使用すると、機器を損傷する場合があります。
-

MOメディアのラベルについて

MOメディアにラベルを貼付する場合は、必ず指定の位置に1枚だけ貼ってください。また、貼った後ではがれないようにMOメディアの両面をしっかりと押さえてください。(最近のラベルには再剥離可能なようにのりが弱いものもあります。そのようなラベルはできるだけ使用しないでください。)

不適切な位置に貼ったり、2枚貼りするとMOユニット内部でラベルがはがれて、MOメディアがイジェクトできなくなる恐れがあります。



4.4 メディアIDについて

本製品は「メディアID」機能に対応しています。以下のロゴマークはメディアID機能対応を示すものです。



メディアIDとは、メディアID対応のMOメディアに著作権保護の目的で記録された変更不可能な固有の番号です。今後ブロードバンドコンテンツ配信サービスなどで、メディアIDを前提とした著作権保護が施されたコンテンツの配信が予定されますが、このようなコンテンツを保存/再生するには、メディアIDに対応したMOメディアおよびMOドライブが必要です。詳細についてはインターネット上の弊社Webサイトをご参照ください。

本製品のメディアID機能を使用するためにはドライブが必要となります。メディアID対応ドライブは、付属のCD-ROM「LogitecWare」内に収録されています。また、最新バージョンについては、弊社Webサイトにて公開中です。

4.5 オプション品について

弊社ではSCSIケーブルやSCSIインターフェースボード、SCSIインターフェースカード等を別売のオプション品として取り扱っております。オプション品のお求めは、お買い求めいただいた販売店またはロジテックの安心オンラインショップ「ロジテックダイレクト」にてお求め下さい。

ロジテックダイレクトホームページ

<http://www.logitec-direct.jp>

ケーブル

ケーブル	長さ	SCSIコネクタ
CB-51WW-003	0.3m	D-subハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51WW-008	0.8m	
CB-51HW-003	0.3m	アンフェノールハーフピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HW-008	0.8m	
CB-2550D-005	0.5m	D-sub25ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-003	0.3m	アンフェノールフルピッチ50ピン D-subハーフピッチ50ピン
CB-51HB-008	0.8m	
CB-PBA50-005	0.5m	HDI30ピン D-subハーフピッチ50ピン

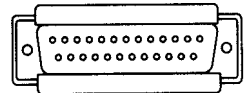
コネクタ形状



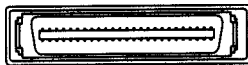
D-sub ハーフピッチ 50 ピン
(本製品のコネクタ形状)



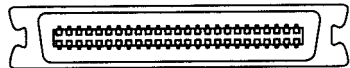
HDI 30 ピン



D-sub 25 ピン



アンフェノール
ハーフピッチ 50 ピン



アンフェノール
フルピッチ 50 ピン

PCIバス用 SCSI インターフェースボード

SCSIインターフェース	バス	仕様	SCSIコネクタ
LHA-600S	PCI	UltraSCSI	D-Sub ハーフピッチ 50ピン

上記SCSIインターフェースボードは、「P」モデルに標準添付されているものと同じです。

上記 SCSI インターフェースボードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、Macintosh シリーズ共通で使用できます。

CardBus 用 SCSI インターフェースカード

SCSIインターフェース (PCカード)	バス	使用	SCSIコネクタ
LPM - SCSI3EH	Cardbus	Ultra SCSI	D - sub ハーフピッチ 50ピン

上記 SCSI インターフェースカードは、DOS/V パソコン、PC98-NX シリーズ、PC-9800 シリーズ、Macintosh シリーズで共通使用できます。

ハードウェア仕様

機種名	LMO- A654S	LMO- A1354S	
メディアタイプ	3.5 型 MOメディア *1		
ディスクあたりの記憶容量	640MB/ 540MB 230MB/ 128MB	1.3GB 640MB/ 540MB 230MB/ 128MB	
平均シークタイム	23 ms		
ディスク回転数	5455 rpm	5455 rpm *2 3637rpm	
インターフェース	UltraSCSI		
最大同期転送速度	20 MB/s *3		
キャッシュメモリ	2MB		
環境条件 *4	動作時	温度	10 ~ 35
		相対湿度	20% ~ 80%
	保管時	温度	- 10 ~ 50
		相対湿度	10% ~ 85%
入力電圧	AC100V ± 10% 50/ 60 Hz *5		
消費電力 (定格)	7.0 W *6		
外形寸法 (幅 × 高さ × 奥行き)	37 × 123 × 201 mm		
質量	1.1 kg		

*1 対応メディアについては本書の 1 . 1 節参照。

*2 1.3GB MO メディア使用時は 3637rpm。

*3 理論値。

*4 ただし結露なきこと。

*5 AC アダプタ。

*6 AC アダプタを含む。

LMO-AS-FJ V05A



<http://www.logitech.co.jp/>